

ハンドブック  
ワンポイント  
レッスン

# 知っておきたい規則とルール

## Question

はじめまして。今年の春から娘が中学校の部活でソフトテニスを始めました。もうすぐ地区の新人戦があるということで練習を頑張っているようですが、大会に出るためには審判も出来るようにならなくてはいけないということでそちらも勉強中です。正審のほうは採点票の記入の仕方やコールなどについて、だいたい理解できてきているようですが、副審については、教えてくれる先輩たちもあいまいで構え方やサインなどが自信を持って出来ないと言っています。私自身も学生時代にソフトテニスをしていましたが、いざ審判を娘に教えるとなると正しく教えられるかどうか少し不安です。副審の構えやサインの仕方について詳しく教えていただけませんか？

## Answer

副審の構えやサインは指先までしっかりと伸ばしましょう  
構えやサインだけでなくサービス判定などで場所を移動するときの動きも  
キビキビとした動きを心掛けましょう

部活でソフトテニスを一生懸命練習されて、新人戦を目前に控えているということで娘さんも期待や緊張などいろいろな気持ちでいらっしゃることでしょう。

ソフトテニスの大会では、多くの大会においてプレーヤーはその大会でのアンパイヤーも務めます。したがって、ソフトテニスのプレーの技術だけでなく、正しく審判が出来ることも必要となります。ご質問によりますと正審については概ねご理解をされていて副審の構えやサインの出し方について不安があるということですので、今回はそちらについてご説明したいと思えます。

まず副審の定位置はネットポストの後方約60cmの位置となります。ラリー中はこの位置で直立し手は指先までしっかりと伸ばして体側へ付けます。いわゆる「気をつけ」の姿勢です。そしてラリー中の副審の判定区分は審判台のない方のサイドラインになりますので、プレーヤーの打球がサイドラインを越えてアウトした場合にはボールの落下点に正対して注目し、指を伸ばし外側になる手を上に挙げます。これが「アウト」のサインです。この時に腕がまっすぐになるよう伸ばした腕が自分の耳に付くくらいを心がけ指先まできちんと伸ばしましょう。

サービス判定の際には定位置であるネットポストの後方からレシーバー側のサービスラインの仮想延長線上(サイドラインより外側)に位置し、そのサイドのベースライン側の足を前に出します。この時の歩幅は肩幅より少し広いくらいがちょうど良いでしょう。そして足を前に出した側の手を軽く膝に乗せ、反対の手は背中への腰へまわします。このとき手の甲を腰に付け指先を伸ばしておくようにします。これがサービス判定時の構え方となります。このように構えた状態で副審自身が判定すべきサービスコートを見つめ、サービスラインや副審側のサービスサイドラインを超えて落下したサービスについては、膝に乗せていたほうの腕を地面と平行になるくらいまで上げ、さらに掌をネット側へ向けて肘を直角に曲げます。これが「フォールト」のサインです。フォールトのサインを行う際にも、アウトのときと同様に指先までしっかりと伸ばすように心掛けましょう。サービス判定時のサインとしては他にも「レット」の判定があります。有効に打球されたサービスが、ネットやネットポストに当たった後に、本来入るべきサービスコートへ落下した時などはレットとなりますので、その時にはサービ

ス判定をする構えから直立し、膝に乗せていた腕を真直ぐ上に伸ばして、第1サーブの場合には指を2本、第2サーブの場合には指を1本指し示すと同時に「レット」とコールも行います。「副審はコールをしない」と誤った認識の方もいらっしゃると思いますが、「アウト」、「フォールト」以外の判定については、副審も正審と同様にコールを行いますのでしっかり覚えておきましょう。またレットの判定で直立した際には、サインを出す方の反対の腕は体側へ付け指先までしっかり伸ばしましょう。区画線に関わる判定については以上ですが、その他の判定区分（ネットタッチ、ネットオーバー、ツーバウンズ、チップなど）についても、副審は当該のプレイヤーを指さしてのサイン（このときネットポストに向かって右側のプレイヤーに対しては右手、左側のプレイヤーについては左手で指をさす）とコールによって判定を行ったり、「タイム」や「ノーカウント」の際にもサインとコールを行います。文章ではなかなかイメージしづらい部分もあるかと思うので、ハンドブックの審判規則第11条（サイン）や、ジュ

ニア審判マニュアルの審判規則について3. サインの付図に描かれている絵も併せてご覧になると、より理解していただけるものと思います。

今回ご質問頂いた内容は副審の構えやサインについてでしたが、副審を務める場合には正しい構えやサインはもちろんですが、サーブ判定の際など場所を移動することとなりますので、その間の挙動もキビキビとした動きで行うよう心掛けなくてはなりません。新人戦を前に審判についての勉強にも熱心な娘さんは素晴らしいですね。大会でプレーでも審判でも努力の結果が発揮されることを願っています。

**【関連規則】**

ソフトテニスハンドブック

審判規則

第11条 サイン

ジュニア審判マニュアル

審判規則について

3. サイン

(ア) 副審の構えの姿勢



(イ) フォールト



(ウ) レット(コールもする)



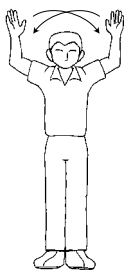
(エ) アウト



(オ) その他の判定区分(コールもする)



(カ) ノーカウント



(キ) タイム(コールもする)

